

豊津に残る室戸台風の記憶と教師愛の物語

新山ひろし

今から77年前、昭和9年9月21日、吹田を室戸台風が襲った。現在の豊津第一小学校(当時、豊能郡豊津村豊津尋常高等小学校)で、二人の女性の訓導(正教員)、51人の児童が亡くなった。二人の訓導は、自分の命を投げ打って、子供たちの命を守ったという。豊津第一小では、毎年、9月21日を『風災記念日』として、室戸台風の犠牲者の慰霊を行っているという。今回は、命をかけて児童をかばった当時の教育者の行動と心に迫ってみたい。

昭和9年の室戸台風の猛威

まず、室戸台風の実態を見ておこう。この台風が大阪を襲ったのは、昭和9年(1934)9月21日朝8時頃。瞬間最大風速60メートルの暴風雨が、大阪府内で死者1812人、負傷者9008人、家屋全壊7400戸の大被害をもたらした。吹田を直撃した8時頃は、児童たち



訓導 吉岡藤子さん

訓導 横山仁子和子さん

吉岡訓導の浪曲が蘇った

「せつ一度、教室に参ります」「そりゃ危険だ」「中に子供がいるんです。止めるその手を振り切って、吉岡先生が校舎に戻るその途端、崩れ落ちる校舎…ああ、思い出の校舎は見るも無残に崩れゆく…」これは『あゝ、吉岡訓導』という題の浪曲の一節。若き女性浪曲師の菊池まささんが、70年以上前に作られた作品を、今に蘇らせ



大阪城公園内の教育塔。豊津の物語が全国に広がり、この教育塔も建てられることになった

とつて、ちよつど始業時刻と重なり、悲惨な事態を招くことになった。

豊津第一小学校を訪ね、宮崎信夫校長に当時のお話を伺った。

「豊津尋常高等小学校では、4月に新築したばかりの校舎が倒壊したのです。吉岡藤子先生の遺体を動かそうとしたら、その下に五人の女の子が生きていました。吉岡先生は自分の体で5人の児童の命をかばったのです」と宮崎先生は語る。吉岡先生は子供たちを強く抱きしめていたために、村人が遺体を子供たちから離そうとした時、なかなかはがれなかったという。

吉岡藤子訓導とは、どんな人だったのだろうか。殉職当時27歳。岡山県有漢準教員養成所を卒業し、山口県や兵庫県の小学校で教鞭をとった。4年前に夫が死に、幼い女兒を育てながら、紡績工場の女工たちを教える仕事を果たし、再度、学校で教職に就く決心をして、昭和8年4月、豊

二人の訓導の物語から教育塔が建立された

り、その瞬間、涙があふれた。

ところで、室戸台風で倒れたのは木造校舎だった。それ以来、教育界では、鉄筋校舎への変化が促進され、学校における災害対策も積極的に取り組まれるようになっていったという。そして、室戸台風の二年後、大阪城公園に、高さ約30メートルの室戸台風の犠牲者を慰霊する「教育塔」が建立されることになった。

さて、僕は今、教育塔の前に立っている。塔の前面には、一枚のレリーフ。左の方は、二人の教師が子供たちを抱いている。このレリーフは吉岡訓導と横山訓導か…。そして、右の方のレリーフは訓書講読の構図となっている。教育塔ができた昭和11年と言えば、日本は戦争に向かい、皇民化教育が行われていた。二人の先生の物語が国威発揚のために利用された可

津小学校に赴任してきたばかりだった。殉職後、幼い女兒が残されたことも、吉岡先生に哀れさ、切なさが感じられる要因だろう。

毎朝、二人の慰霊碑に線香を

「もう一人の横山仁子和子先生も、三人の子供をかばって、自分は亡くなったんです」と宮崎校長。

横山仁子和子訓導は当時25歳、香川県敬愛高等女学校を経て、京都女子高等専門学校国文科を卒業、昭和6年10月に三島郡山田村の山田尋常小学校に赴任した。9年9月の新学期に豊津小学校に転任してきたばかりだった。新人だったために横山訓導の遺体を見にきた村民が顔を識別できず、遺体確認が遅れたという。

「今でも、毎朝、この祭壇にある二人の教師と生徒たちの慰霊碑に線香を上げています」と宮崎校長は慰霊碑のある祭壇を開ける。僕も、線香を上げさ

能性は否定できないだろう。そして、終戦三年目の1948年、教育塔の管理は、国から日本教職員組合(日教組)に移行して現在にいたっている。毎年、行われる「教育祭」は、「教育勅語」発布の記念日である10月30日に執り行われている。「日教組」は、教育勅語には批判的ではなかったか。「教育祭」が風災の慰霊なら10月30日より、室戸台風の来襲した9月21日の方が自然ではなからうか。

さて最後に、僕は「二人の先生の自己犠牲的な行動はどこから来たものか」と問うてみたい。「教育勅語」の12徳の一つ「広く世の人々や社会のためになる仕事に励む」との実践だろうか。昭和9年という歴史的な時点を考えれば、そうであったのかも知れない。しかし、僕は、緊急時に示す人間の根源的な犠牲衝動…と理解したい。今、一人に向き合って正直に自分の気持ちを語るとすれば「吉岡さん、横山さ



現在の吹田市立豊津第一小学校(右)と校長室の慰霊壇(左)。吉岡先生と児童のレリーフと慰霊碑

せてもらい、合掌した。そして、僕は訓導たちの児童への行動が気になって来た。どうして、二人は、自分の命をかけて子供たちを守ろうとしたのだろうか。あるいは、守れたのか。現在の小学校の先生なら、どう行動するのだろうか。命を捨てて、児童をかばうってどういふことなのだろう。僕の胸がドキドキと鼓動を打ち始めた。

ん、僕はあなたたちのように自分の命をかけて人の命を守るかどうか不安です。逃げ出すんじゃないか…そんな恐怖があります。でも、あなたたちのことは、心に誓って忘れない。僕の心の中の勇気の灯を育てたいと思います」となるだろうか。77年前に豊津で起きた物語が、震災の影響下にある今の日本人に、生々しく蘇ってきた、そんな気がする。

協力

- 吹田市立豊津第一小学校
〒564-0063 吹田市
江坂町一丁目15-42
☎06-63686-0891
- 宮崎信夫校長には心から感謝します
- 参考文献
 - 「図説大阪府の歴史・大正時代の時代 小山仁示(文)」 河出書房新社
 - 「おおさか100年物語・吉岡藤子先生の人となり」三善貞司著
 - 朝日新聞2007年9月19日「浪曲で伝える教師愛」
 - 「石の声・碑の語り」 吹田市市長室広報課発行
 - 「吹田市史第七巻」P367 豊津尋常小学校の校葬の記録